

学校評価報告書 (江津市立津宮小学校)

No.1

(平成18年度)

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
① 教育課程・学習指導	教育課程の編成・実施	自校の課題を的確に把握し、適切な教育課程を編成・実施する。	自校の実態を把握しながら、教育課程の編成・実施を円滑に行う。	自己点検表(別紙)により客観的に点検し、平均点が5段階で3.8以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検表(資料①-1)により客観的に点検し、平均点が5段階で3.7であった。 各項目、概ね目標達成をしているが、各教科の枠を超えて、読解力向上を目指した取組について、落ち込みが見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 読解力、図書館利用、コンピュータ活用、特別支援教育等への対応で、今後の取組を期待する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、実施を円滑に行うために、計画、実施の状況を定期的に確実に点検する。 読解力向上を目指した取組を強化する。 図書館利用、パソコン利用に関連した教育課程の編成を強化する。
	(1)分かる授業の創造に努め、豊かな学力の定着を図る。				<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果について分析し、課題を明らかにした。その課題解決に向けた具体的な取組は今後の課題である。 児童アンケート「先生は、授業の時のいろいろな工夫をしてわかりやすく教えてくれる。(87%)」のように、「わかる授業」を目指して取組んできた。 全校で、毎月、同時間に漢字及び計算テストを実施し、学級単位で目標値を設定し、その達成を目指す。 教員の自己評価では、「個別指導や少人数授業に力を入れた授業実践に努めた。(65%)」「補充的な学習や発展的な学習を取り入れた指導に力を入れた。(65%)」であり、指導方法の工夫改善には、まだ課題が残る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究に力を入れ「わかる授業」を目指して実践され、学習の成果については、児童のアンケート報告や掲示物からも伺える。 個別指導や少人数授業、補充的な学習については、まだまだであるように見える。 児童の学力評価より、その向上のための取組み方がどうであったかがポイントと考えたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果を生かし、学力向上に向けた具体的な手立てを推進して行く。 「わかる授業」を目指した授業改善に取組む。 豊かな表現力を培うための具体的な手立てを明らかにする。 ともに学ぶ力を高める学習集団づくりを目指す。 個に応じたきめ細かな指導を徹底する。 明確なねらいを持った教育活動の企画と実践に努める。
	確かな学力の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①豊かな表現力を培い、ともに学ぶ力を高める学習集団づくり。 ②少人数授業や特別支援の取組により、個に応じたきめ細かな指導。 ③明確なねらいを持った教育活動の企画と実践。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果を分析し、学力向上に生かす手立てを明らかにする。 「わかる授業」に取組む。 漢字の読み書き、四則計算の力を高める。 個別指導や少人数授業に力を入れる。 補充的な学習や発展的な学習を取り入れた指導に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果について分析し、課題を明らかにする。 児童アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。 全校漢字・計算テストの結果について、数値目標を設定し、その達成を目指す。 授業の実践記録により、成果があった事例を公表できる。 授業の実践記録により、成果があった事例を公表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の自己評価「地域の教育資源を生かした単元を工夫した授業実践に努めた。(88%)」「体験的な学習を重視した。(88%)」から、ふるさと教育に対する取組は評価できる。 5年生が代表で参加する「ふるさと教育フェスティバル」に向けた取組は、最大評価ができる。 児童アンケート「自分たちが住んでいる町や江津市のことを勉強することは、楽しい。(65%)」「自分たちが住んでいる町や江津市には、よいところがたくさんある。(67%)」から、ふるさとの良さに気づき、愛着や誇りに思うことができる教育活動について、課題が残る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいた体験学習で興味を持ち、ふるさと探求に取組んだ様子が学習発表に表れていた。 「ふるさと」「自分の住んでいる町」を愛する心を育むことは素晴らしいことと思われませんが、大切なものと思います。 ふるさと教育フェスティバルは素晴らしいかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を生かした単元について、年間指導計画を確立する。 体験的な学習をさらに重視する。 児童にとって、ふるさとの良さに気づき、愛着や誇りに思うことができる教育的はたらきかけの実践研究を行う。
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> 地域の「ひと、もの、こと」を積極的に活用した教育活動を工夫する。 「自分」や「人」「ふるさと」を大切にしようとする心情と態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を生かした単元を工夫する。 体験的な学習を重視する。 ふるさと教育フェスティバルに向けた取組に力を入れる。 児童にとって、ふるさとの良さに気づき、愛着や誇りに思うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践記録を公表できる。 体験的な学習の実践記録を公表できる。 フェスティバル展示のパネルやステージ発表に向けた取組を公表できる。 児童の感想、作文、アンケート等から推察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の自己評価「地域の教育資源を生かした単元を工夫した授業実践に努めた。(88%)」「体験的な学習を重視した。(88%)」から、ふるさと教育に対する取組は評価できる。 5年生が代表で参加する「ふるさと教育フェスティバル」に向けた取組は、最大評価ができる。 児童アンケート「自分たちが住んでいる町や江津市のことを勉強することは、楽しい。(65%)」「自分たちが住んでいる町や江津市には、よいところがたくさんある。(67%)」から、ふるさとの良さに気づき、愛着や誇りに思うことができる教育活動について、課題が残る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいた体験学習で興味を持ち、ふるさと探求に取組んだ様子が学習発表に表れていた。 「ふるさと」「自分の住んでいる町」を愛する心を育むことは素晴らしいことと思われませんが、大切なものと思います。 ふるさと教育フェスティバルは素晴らしいかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を生かした単元について、年間指導計画を確立する。 体験的な学習をさらに重視する。 児童にとって、ふるさとの良さに気づき、愛着や誇りに思うことができる教育的はたらきかけの実践研究を行う。 	

学校評価報告書 (江津市立津宮小学校)

No.2

(平成18年度)

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
① 教育課程・学習指導	学校図書館 読書活動	児童の読書意欲を高め、知的活動を増進する。	「本が大好き」という声があがる「図書館教育」に取組む。	児童アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。	・学校図書館経営実績報告書(資料②-3)のとおり、読書活動の取組は評価できる。 ・児童アンケート「自分は、読書が好きで、本をたくさん読んでいる。(67%)」は、課題が残る結果である。	B	・適正な自己評価である。	B	・バーコードによる「学校図書館蔵書管理システム」の導入により、図書館利用の充実を図る。 ・読書内容の充実を目指す。
	道徳教育	①教育活動を通しての道徳的実践・人間尊重の精神の涵養。	授業研究を行いながら、道徳の時間の充実を目指す。	教師の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。	・教員の自己評価「授業研究を行いながら、道徳の時間の充実を目指した。(71%)」のように、各学級で道徳の研究授業を行った。 ・児童アンケート「自分は、道徳の時間に自分をふりかえったり、自分の考えをよく発表したりしている。(44%)」からは、道徳の時間の内容や取組に課題も残る。				C
② 生徒指導	生徒指導	②共感的児童理解に基づく生徒指導の充実。	定期的な全児童を対象とした教育相談を行う。	実施した成果を数値で報告し、達成率90%超を目指す。	・定期的に全児童を対象とした教育相談は実施し、教員の自己評価「カウンセリングマインドの手法を生かした生徒指導を行った。(67%)」からは、ある程度の成果が見られた。	C	・時間的制約の中で難しいテーマと思われず。手法の取り入れ方、その評価、共通理解の仕方等の工夫、指導の在り方の検討も必要なのではないでしょうか。 ・児童の自律性に結び付いている活動は評価できるのではないのでしょうか。 ・生徒指導での協力体制が取れないことは問題である。	C	・全児童を対象とした教育相談を定期的に行い、共感的児童理解に基づく生徒指導の充実を目指す。 ・生徒指導体制の整備と拡充を目指すために、具体的な方策をとる。 ○生徒指導部の体制改変 ○生徒指導上の諸問題への対応方法の工夫改善 ・生活目標による重点的な生徒指導を徹底する。
			カウンセリングマインドの手法を生かした生徒指導を行う。	実践例について、報告できる。	・教員の自己評価「生徒指導について、教職員の共通理解が図られ、協力的な指導体制が整備されていた。(35%)」「生徒指導上の問題行動等について、迅速な対応が図られていた。(57%)」のように、教職員の共通理解・協力体制には、大きな課題が残った。				
		③教職員の共通理解・協力体制により、社会規範を遵守する態度の育成。	生徒指導体制の整備と拡充を目指す。	教師の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。	・児童アンケート「自分は、家の人や町の人にもあいさつをよくする。(85%)」「自分は、生活目標や学校のきまりを守ろうと努力している。(76%)」から、児童の自律性				
		生活習慣の基本をいくつか押さえ、重点的な指導を行う。	児童アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。	・児童アンケート「自分は、家の人や町の人にもあいさつをよくする。(85%)」「自分は、生活目標や学校のきまりを守ろうと努力している。(76%)」から、児童の自律性					
③ 進路指導	キャリア教育	勤労観・職業観を育てる指導を充実する。	キャリア教育について、認識を深め、全校体制で取組む方向性を明確にする。	教師の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。	・教員の自己評価「キャリア教育について、認識を深め、全校体制で取組む方向性が明確にされていた。(26%)」「勤労体験やボランティア活動体験が教育計画に組み込まれていた。(37%)」から、この項目の課題性が明らかになった。	D	・キャリア教育の難しさが浮き彫りになっている。 ・ないものを生み出す学習は難関である。 ・キャリア、勤労観、職業観を徐々に育てて行く継続的活動が望まれる。	D	・キャリア教育について、認識を深める研修会を実施することによって、取組みの方向性を明確にし、勤労体験やボランティア活動体験を教育計画に組み込む。
			勤労体験やボランティア活動体験を教育計画に組み込む。	実践例について、報告できる。					

学校評価報告書 (江津市立津宮小学校)

No.3

(平成18年度)

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策		
					達成状況	評価	考察	評価			
④ 安全管理	健やかな体	①体力・気力の向上を図る健康安全・体育の充実	外遊びやスポーツに熱中する児童生徒を増やす。	児童及び保護者アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。	B	・児童アンケート「自分は、外遊びやスポーツをよくしている。(76%)」保護者アンケート「お子様は、外遊びやスポーツをすることが多い。(81%)」からは、外遊びやスポーツに熱中する児童の姿が多く見られる。反面、教員の自己評価「体力づくりの活動に継続的、定期的に取り組んでいる。(35%)」から、体力づくりの活動に継続的、定期的な取組に大きな課題が残る。	B	・児童数が多いため、個々の運動能力の向上を目指す面ではやや劣るのではないかと。 ・ローテーションを組んで、遊びを通してしっかり訓練したい。 ・「よく学び、よく遊び」のとおり、大切な項目ですが、そのバランスの取り方が難しいです。	B	・体力づくりの活動に継続的、定期的に取り組むことを目指して、具体的な方策を明らかにする。 ○自己目標達成型の体力づくりを推進する。(がんばりカードなど)	
			体力づくりの活動に継続的、定期的に取り組む。	児童の自己目標達成カードを利用する。							
	安全対応能力の向上	②危機管理体制の確立と安全意識とルール遵守の態度の育成。	毎月15日を「安全の日」とし、安全点検を実施する。	危機管理マニュアルに基づいた学校安全対策を徹底する。	教師の自己評価で、肯定的評価90%超を目指す。	B	・教員の自己評価「危機管理マニュアルに基づき、学校安全対策を徹底している。(88%)」「毎月15日を「安全の日」とし、安全点検を実施している。(92%)」から、危機管理体制については評価できる。しかしながら、校内での骨折等の怪我を伴う事故、交通事故の件数は、目標を下回っているところに課題が残る。 ・防災・避難訓練を各学期に1回行った。(授業中の火災、自由時間中の火災、地震) ・2月に教職員対象にした不審者侵入対応シミュレーション研修を行うこととしている。	B	・安全第一はもちろんですが、事故の起きた後の対応と対策が大切と考える。 ・防災、避難訓練を定期的に行われており評価できる。	B	・学校事故ゼロを目指すとともに、児童の安全意識を高め、危険回避能力を高める指導方法の工夫改善に努める。 ○安全教育の年間計画の見直しと実施状況の点検を行う。 ○地域安全マップの作成をねらった授業を行う。 ○不審者対応のシミュレーション訓練を行う。
月別、学期別等の単位で学校事故ゼロを目指す。				安全点検の実施記録を公開できる。	学校事故の記録について、公表できる。						
安全意識を高め、危機回避能力、危機対応能力の向上を目指す。				防災・避難訓練を行う。	防災・避難訓練の実績について報告できる。						
⑤ 保健管理	学校保健 学校環境衛生	学校保健計画に基づいて、子どもの自己健康管理能力の向上を図る。	日常の健康観察や疾病予防等の指導を通して、子どもの自己健康管理能力の向上を目指す。	毎日の健康観察による。	A	・教員の自己評価「日常の健康観察や疾病予防等の指導に努めた。(100%)」のように、日常の健康観察や疾病予防等の指導は徹底していた。 ・個別に健康相談会を実施。 ・元気っ子を育てる会の実施。(学校保健委員会)	A	・適正にな自己評価されている。 ・ご苦労がしのばれる。	A	・元気っ子を育てる会(学校保健委員会)の充実を目指す。	
			健康診断を効果的に実施し、個別指導に力を入れる。	個別指導の実践記録により成果があった事例を公表できる。							
	学校給食	学校給食の衛生管理に万全を期す。	学校給食の衛生管理をマニュアルに基づき厳正に行う。	衛生管理トラブル“ゼロ”を目指す。	A	・学校給食の衛生管理をマニュアルに基づき厳正に行い、衛生管理トラブル“ゼロ”を継続中である。	A	・適正にな自己評価されている。 ・トラブル“ゼロ”を続けてください。	A	・今後とも、学校給食の衛生管理に万全を期す。	

学校評価報告書 (江津市立津宮小学校)

No.4

(平成18年度)

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
⑥ 教育特別支援	(5) 人権教育・特別支援教育の推進				・「なかよし班」活動などの成果が、児童アンケート「津宮小学校の子どもたちは、みんなで仲良くしたり助け合ったりしている。(77%)」に現れている。 ・人権・同和教育に視点を当てた参観授業は、全学級で実施している。	B	・児童会役員のリードのもとに全学年合同の集会有り、楽しく集うことにより互いの心が和み、効果ありと見た。 ・参観日に同和教育をすることはすばらしい。 ・肯定的回答以外の児童への対応が不明。	B	・「なかよし班」活動は、定期的、継続的に行う。 ・人権・同和教育に視点を当てた授業研究を行う。
	人権・同和教育	①同和教育を核とした人権教育を推進する。	「なかよし班」活動により、児童の人権意識を高める。 人権・同和教育に視点を当てた参観授業を行う。	児童アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。 年に1回は人権・同和教育に視点を当てた参観授業を行う。					
特別支援教育	②特殊学級・通級指導教室・通常の学級での個のニーズに応える特別支援教育を積極的に推進する。	特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を整え、校内委員会の開催や校内研修等を充実させる。 個別の指導計画及び教育支援計画を作成する。	教職員の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。 教職員の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。	・教員の自己評価「特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を整え、校内委員会の開催や校内研修等を充実させている。(88%)」であるが、不十分である。 ・個別の指導計画及び教育支援計画について、次年度への引継ぎを意図した様式で作成することとしている。	B	・相談室があり、有効に会が持たれていると感じている。 ・温かい見学会が肝要である。 ・目標指数を超えていればAと評価できる。	B	・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会の開催や校内研修等について、一層の充実を目指す。 ・個別の教育的ニーズの把握に努め、個別の指導計画及び教育支援計画を作成する。	
⑦ 組織運営	(4) 豊かな情操を培う環境づくりをする。～1～				・教員の自己評価「自己の校務分掌を自覚し、協働の気持ちで学校運営に参画している。(84%)」から、ある程度評価できる。 ・校務分掌の各組織ごとの取組状況は、各綴りによる。	B	・適正な自己評価がなされている。	B	・教職員の目標に向かう協働の姿と子どもの好ましい人間関係の構築を目指す。校務分掌の各組織ごとの目標を設定し、達成に向けた具体的な取組を推進する。
	学校運営 校務分掌	①教職員の目標に向かう協働の姿と子どもの好ましい人間関係の構築。	校務分掌の各組織ごとの目標を設定し、達成に向けた具体的な取組を推進する。	教職員の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。					
	服務規律	教職員の厳正な服務規律の確保に努める。	服務規律の確保に関する自己点検表により、定期的に自覚を促す。	教職員の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。	・教員の自己評価「教育公務員の自覚のもと、服務規律の厳正な確保に努めている。(96%)」であり、評価できる。	A	・適正な自己評価がなされている。	A	・今後も、教職員の厳正な服務規律の確保に努める。
	学級経営	学級経営の充実に努める。	各学級において、学級経営案に基づいた目標管理を推進し、効果を上げる。	児童生徒・保護者アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。 学級経営案の一部を公表できる。	・児童アンケート「自分の学級は、いじめや暴力などがなく、みんな仲良く楽しいクラスである。(63%)」であり、児童自身には不満な部分も多い。 ・保護者アンケート「学年・学級よりは、学年や学級の様子がよく伝わってくる。(87%)」では、ある程度評価できる。 ・すべての教員が経営案を作成し、各学期末ごとに反省・まとめをしている。	B	・一人一人を大事にする経営がしっかりと受け止められるが、いろいろな思いの児童がいるため、きめ細かい見守り継続したい。	B	・各学級において、学級経営案に基づいた目標管理を推進し、効果を上げる。 ・学級通信により、学級の取組を適時、保護者に伝える。
情報管理	個人情報の保護・管理を徹底する。	個人情報保護・管理に関する対応マニュアルを作成する。	個人情報保護・管理マニュアルを公表できる。	・個人情報保護・管理に関する対応マニュアルを公表する。ガイドラインを作成しホームページ公開している。	B	・Bと評価する点が不明。	A	・個人情報保護・管理に関する対応マニュアルに基づき、情報管理を徹底する。	

学校評価報告書 (江津市立津宮小学校)

No.5

(平成18年度)

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
⑧ 研修	校内研修	校内における研修を通して、教師力を高める。	校内研修の充実を図る。	教職員の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。	・教員の自己評価「教師力を高めるための校内研修は充実していた。(71%)」とあるが、不十分である。	B	・適正に自己評価がなされている。	B	・校内研修のより一層の充実を図る。 ・自己の研修課題を明確にし、自己研鑽と修養に努める。
	校内研究	研究授業、教材研究を通して、授業力を高める。	校内における研究授業や教材研究により、指導方法等の工夫改善を積極的に行う。	教職員の自己評価で、肯定的評価80%超を目指す。 研究成果を公表できる。	・教員の自己評価「研究授業や教材研究により、指導方法等の工夫改善を積極的に行った。(80%)」 ・研究論文を作成し、市教研に応募した。ホームページで公開する。	B	・校内研究を重ねて、授業の充実への努力が伺える。	B	・研究授業、教材研究を通して、授業力を高める。 ・児童の伸びが実感できる、又は実証できる研究実践に取り組む。
⑨ 保護者、地域住民等との連携	学校運営への参画及び協力	保護者や地域住民との連携を強化し、学校運営に対する参画や協力を得る。	学校評議員やPTA役員から学校運営に関する意見・提言を得る。 保護者や地域住民の意見や要望を学校経営に生かす。 スクールボランティアについて、校内システムの構築を目指す。	学校評議員会、PTA役員会を定期的に開催する。 保護者、地域住民に対するアンケートを実施する。 保護者や地域の方の学校支援ボランティアの実績を上げ、実践例を公表できる。	・学校評議員会の開催(学期に1回) ・PTA執行部会を随意開催 ・保護者、地域住民に対するアンケートを実施した。 ・スクールボランティアについて、本校独自の実施要項を作成し、保護者を対象としたボランティア実績を残している。	B	・適正に自己評価がなされている。	B	・学校評議員会の内容充実を図る。 ・PTAの会合において、学校運営に関する意見・提言を得る。 ・地域住民の意見や要望を学校経営に生かすことができるように、学校公開日のあり方を検討する。 ・スクールボランティアについて、周知、啓発を推進し、実績アップを目指す。
	情報提供	学校教育の内容及計画を広く情報発信する。	学校だよりを毎月発行する。 ホームページを開設し、随時更新する。	学校だよりを毎月25日付けで発行する。 月、一回上更新する。	・学校だよりを毎月25日に発行(担当:校長)保護者アンケートで90%を超える肯定的評価を得ている。 ・ホームページの開設(担当:教頭)更新は、月1回のペースで行う。	B	・Bとした理由は如何か。	A	・学校ホームページの内容充実と随時更新を行い、アクセス数のアップを目指す。
	学校間の連携	幼・保・小・中の学校種間の連携を図り、児童生徒の心豊かで健全な育成に資する。	幼・保・小が連携し、円滑な接続に資する。 小中が連携し、学校間の円滑な接続に資する。	幼小連携会を年2回実施する。 幼稚園との交流学習を実施する。 小中連携会を年2回実施する。 小・中学校の教職員が相互訪問し、児童生徒との直接的な指導の場を持つ。	・6月に1年生の出身保育所・幼稚園の保育士・教員を招き連絡会を実施。新1年生について、連携を図る。 ・2年生が昼休みの時間帯に津宮幼稚園に向き絵本の読み聞かせを行った。(班別に、全員が体験する。) ・7月に小中連絡会を実施。3月下旬に実施予定 ・小・中学校の教職員が相互訪問し、児童生徒との直接的な指導の場を持つことについては、1月末までの実績なし。(10月に青陵中の授業を参観)	B	・指標の確実な実施が望まれる。	B	・津宮幼稚園との相互交流学习を実施する。 ・小・中学校の教職員が相互訪問し、児童生徒との直接的な指導の場を持つことによって、中1ギャップの解消に努める。

学校評価報告書 (江津市立津宮小学校)

No.6

(平成18年度)

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
⑩施設・設備	(4)豊かな情操を培う環境づくりをする。～2～								
	安全・維持管理	②施設設備の保全及び文書・備品の管理の徹底と、安全確保及び教育効果を高める。	随時、安全点検と簡易補修を行う。	児童生徒・保護者アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。	随時、安全点検と簡易補修を行う。 児童生徒・保護者アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委との連絡調整を密にしなが、施設設備の保全に努め、安全確保に万全を期す。 ○老朽化した危険箇所の早期発見に努める。 ・文書及び備品の管理について、工夫改善を行う。
			文書・備品の管理を徹底する。						
	学習・生活環境	③教育活動に資する校舎内外の言語環境の整備。	教室や廊下の掲示を工夫する。	児童アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。	児童アンケート「教室の中やろうかの掲示物は、工夫してある。(79%)」ではあるが、教育活動に資する校舎内外の言語環境の整備には、課題が残る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる努力が望ましい。 ・教育活動に資する校舎内外の言語環境の整備を行う。 ○教室や廊下の掲示を工夫する。 ・子どもの感性・情操を育む自然環境の創造と活用に努める。 ○中庭、ベランダ、階段、校庭周辺、玄関など、「うるおい」と「ぬくもり」のある環境整備を進める。
校舎内外の環境整備を工夫する。			環境整備の実績	・中庭を中心に、四季の装いを意識した花壇、プランター、学校・学級菜園の整備を進めたが、子どもの感性・情操を育む自然環境の創造と活用に、課題が残る。					